

「創造性教育」で新しいものを生み出し
求める最良の人生をつかむ

昨年度、「第15回キャリア教育優良学校」に選ばれ、文部科学大臣表彰を受けた瀧野川女子学園中学高等学校。その受賞理由となつた創造性と起業家精神を育む独自の「創造性教育」について、中心となつて改革を推し進めてきた山口龍介副校長に話を伺つた。

MBA教育で行っている
ビジネスを展開させる

大学入試改革が行われた2021年度入試の総合型選抜で前年比4倍の合格実績をあげて以来、毎年12月までに8割の生徒を大学に合格させてきた瀧野川女子学園。その中には上智大学や東京理科大学など難関校も名を連ねてきた。「総合型選抜に強い高校」として実績を重ねつつある。「年内8割合格」を可能にしたのは、実は2010年から教育改革を始め、2015年から進めてきた「創造性教育」と「起業家精神の育成」を軸

A close-up portrait of Professor Ryosuke Yamaguchi, Vice President. He is a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit, white shirt, and a red patterned tie. He is smiling slightly and looking towards the camera.

とした、次世代のキャリア教育にあり、その結果が2022年度キャリア教育優良学校としての文部科学大臣表彰につながったといえよう。

同校の「創造性教育」は2010年に前身となる形を取り入れて以来、試行錯誤をしながら進め、今では中高6年間をかけて実施する必修授業となり、中1から段階的に、チームで世の中にはないものを創出するための素地固めを行っている。

「MBAの教育で行っているようなビジネスを展開させて組み上げる手法を取り入れた『事業化実習』(高2)や、学んだプログラミング技術を使つたロボット製作(中2)など、自分たちで考えながら実際に手を使い、実践的に新しいモノを生み出すのです」と山口副校長は話す。

「従来の学校教育は、大学や実社会に出た時のビジネスから切り離されがちです。しかし、多くの若者が飛び入りのよ、国の限界を支え、雇用を

女子校だからこそ

ビジネスやプログラミング、ロボット製作など、女性の進出が少ない分野に注力する「創造性教育」について、山口副校長はよくこう質問されるという。「なぜ女子校で?」。だが、答えはいつも簡単だ。「女子校だからこそ」と。

今、産業界では女性が少ないからこそ、その活躍が強く求められている。「たとえばキッズンやバス、トイレを家庭で一番メンテナンスしてきたのは、良し悪しは別として、これまでは圧倒的に女性が多かつたですよね。ところが、その開発者は男性ばかりでした」

システムキッチンのシンクも「傾斜をつけねば野菜クズが流れるのに」と

めが刺されるから。本校は、そこを
変えたかったのです」

A group of five students in school uniforms are gathered around a table, focused on a project. One student is using a laptop, while others are working with green fabric and small white components. The setting appears to be a classroom or workshop.



年度から黒板にかわり導入された4Kモニターで、生徒の双方向の授業を展開

「コミュニケーション能力が高く、共同作業や意見のすり合わせが上手です。さくさくと話しあって、役割分担をして作り上げます。その延長線で、中2は『大道芸ロボット』を作ります。人を喜ばせることを目的としたロボットですが、人にフレンドリーなロボットは、研究者の間でも重要なテーマ。中1からプログラミングを学んでいるので、その技術を使つて『あつたらしいな』と思うものを、自分で作れることを実感できます」

そうなると、自分のしたいことを実現するために何が必要か、数学や理科はやりたいことのための「道具」なのだと気づくという。

「だから、本校の生徒には理数系への忌避感情がないのです。これが私たちのやりたかったことです」

そして、さらに高1の「商品企画コンペティション」、高2の「事業化

「実習」では、これまで創造性教育や人生で学んだすべてを統合して臨み起業家精神を育成する。「事業化実習」では、資本金を出して模擬会社を設立する。模擬といっても、マネジメント、マーケティング、製造、会計を役割分担し、開発したオリジナル製品を学園祭や修学旅行先のハワイで販売。年度末には事業決算し、株主総会で会社を解散するところまで行い、株式会社や資本主義の仕組みを楽しみながら学ぶ。

「その間、先生がファシリテーターとなり、段階を追つて進路教育を行っています。どういう人生を送りたくて、何をして、どこに住みたいかまで一人ひとりに想像させます。地元を離れたくない子から、広く世界へ飛び出したい子までさまざま。そして『そのためにはどういうスキルを身につけるの?』と、キャリアビジョンといつてもよいですが、先生と一緒に一人三脚で自分のキャリア戦略を立案するのです。しかしキャリアの中では、多くの人はチームで働き、新しいことを築き上げていくことが必至。そこに、チームで事業化実習に挑む意味があるので」

先端的なICT教育によって 黒板の無い教室を実現

先端的なICT教育による
黒板の無い教室を実現

この「創造性教育」、および「起業家精神の育成」を支えるのは、単に6年間の「創造性教育」の正規カリキュラムだけではない。他校に先んじ

責任をもつてお子さまをお預かりします。実りある楽しい6年間と共に過ごせればと思っていますので、ぜひ挑戦してください。

「大迷
いフ
上け

A group of five students in school uniforms are gathered around a table, focused on a project. One student is using a laptop, while others are working with green fabric and small white components. The setting appears to be a classroom or workshop.



ハワイ大学チャリティバザーを主催。2022年には約28万円の寄付を実現

